

到底兩者の一致點を見出し難きは寧ろ當然なるに、帝國が一度リットン報告に接するや、朝野愕然として自失し、強國たる襟度をも顧みず、憤慨誹謗に耽り、世論囂々として恰も鼎の沸くが如き狀を呈しあるは、調査委員を唯一の救命者の如く速断したる人々には失望落膽の餘り左もあるべき事にして、毫も怪むに足らざるも、吾人はリットン報告より得たる苦き經驗を滿喫し、之を貴重なる教訓として將來我外務當局が他力本願主義の外交を一切放棄し、自力本願の本然の外交に還元せむことを切望して已まざるなり。

雖然自ら時きたる種子は自ら之を刈り取るの責任あるを以て、吾人は帝國政府が聯盟及世界に對しリットン報告の杜撰謬見を徹底的に糾弾し、彼等をして、該報告は到底日本を首肯せしむるの不可能にして、若し之を強要せば、遂に東洋の平和を擾亂し、世界動亂の素因たるを自覺せしむるの牢固不拔の決意を成し、之に對する準備に全力を傾注せむ事を勸告せんとす。

今更過去に於ける政府當局の對滿策に就て、彼是不滿を述ぶるは死兒の齡を算するに等しきも、吾人より之を觀れば、政府當局としては滿洲事變勃發するや、躊躇することなく、所要の兵力を急速に滿洲に増派して疾風迅雷的に兵匪を掃蕩するのみならず、滿洲擾亂の張本人たる張學良の軍隊を錦州に於て全滅せしむる爲め全幅の努力を拂ひ、可成速に滿洲の秩序及治安の回復維持を計り、且新國家の建設に向つて勇往邁進し、一旦新國家成立せば直に之を承認して徹底的に有形無形の援助を與へ、滿洲國の健全なる發達を計り、以て帝國の確乎たる決意

を中外に示すと同時に、尙百尺竿頭一步を進めて國防の充實に銳意努力し、有事の際に備ふるの準備を整へ、以て調査委員をして滿洲國の獨立は動かすべからざる既定の事實にして、之を否定するは既に時機を失し、帝國の強硬なる主張に反して滿洲問題處理するの不能不利なる所以を覺知せしむるの策に向つて全力を傾注すべかりしに、事爰に出でざりしは實に遺憾措く能はざるなり。

三

翻つて世界各國の滿蒙問題に關する動向を考察するに、言ふ迄もなく極力我を壓迫して苦境に陥れんとする主動者は米國とす。彼れ米國は目下大統領選舉戰を眼前に控へ、對外政策の如何は直に逐鹿戰の勝敗を左右するに重大なる關係を有するを以て、兩黨の候補者共堅く口を緘して多くを語らざりしが、最近現大統領は先づ火蓋を切り、不戰條約及九ヶ國條約を極力擁護するの決心と、之に關係して國際聯盟を徹底的に支持するの覺悟とを發表せり。比較的對外軟の稱ある民主黨の候補者は、滿洲問題に關し公然意見を發表せざるも、現大統領の方針と大同小異と視て大過なかるべきを信ず。米國に追従せんとする意思の濃厚なるは英國なり。彼れ英國は歐州大戰以來、戰債問題及海軍均勢關係等に於て、常に米國に秋波を送るの傾向あるは英米關係を律する上に於て看過すべからざる資料たるのみならず、日本を對象とする英國の支那及滿洲に關する利害關係は米國と共通し、又加奈陀、印度、濠州其他太平洋上の領土に關する英國の關係は親米離日の趨勢に在るを注意せざるべからず。

而して從來滿洲問題に關し、沈黙を守れる英國保守黨機關紙すら最近に至り、反日強硬論を唱ふるに至れるに